

小さな大学の大きな挑戦

～ 地域を担う人材を養成 するための大学教育の実践 ～



1 なぜ地域なのか

- 地域の若者を育てる大学として
- 大学だけは学生が育たない
- 激動の時代に地域から現実を学ぶ
→ 多様な尺度で学生を評価する地域
- 地域と一緒に若者を育てよう
→ そして白旗を掲げることから始めた
- 地域貢献でなく教育を通じて地域とつながる

2 課題発見型の帰納法的な教育手法

～「もったいないプロジェクト」を事例に～

- 学びの動機づけをどうするか
→ 地域に出て現実の中から課題を肌で感じる
- 課題解決に向けた主体的な学び
→ 人間関係や信頼関係の中でその課題解決に取り組む意欲が育つ
- 「総合学習との違いは？」と言われるが
→ 学びのプロセスによって、地域での役割を見出し自らの将来へとつなげる



～現代の学生の特徴を踏まえた教育～

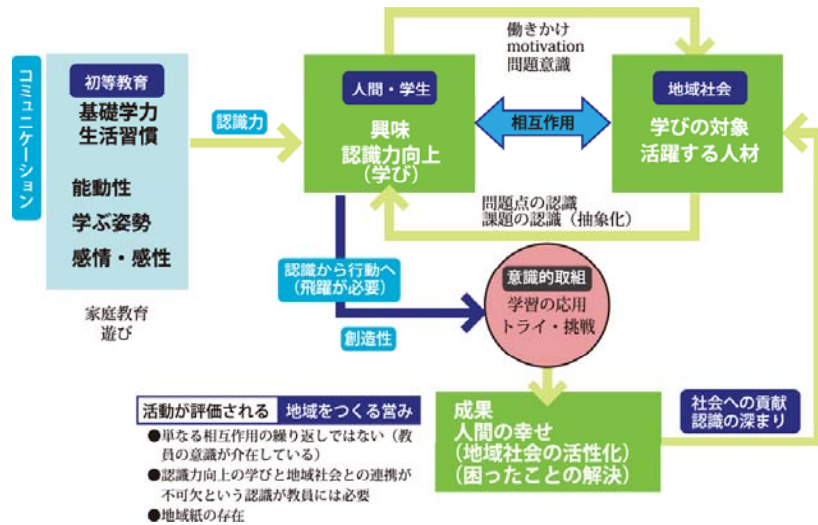
活字離れ（書物、新聞を読まない）課題意識が持てない
何故学ぶのか分からない

自ら学ぶ姿勢が出てこない

資格取得と職業が結びついている場合でも
専門化、蜻蛉化、試験合格目的で、幅広い視野不足

「実社会の問題」と「自らの生き方」をいかに関係付けるか。（地域社会と連携した教育の必要性）

帰納的教育手法 —現場から理論へ—



松本市の中上地域から発信 リアカーでの引き売り

買い物弱者支援に向けて

動機	はじめは「もったいない・不揃い野菜」「シェイプアップ」
現実	話し相手、団欒の場の提供、別の品物も注文(重い、大きい・トイレトペーパー)
展開	中心市街地の空洞化、高齢化の実態を認識



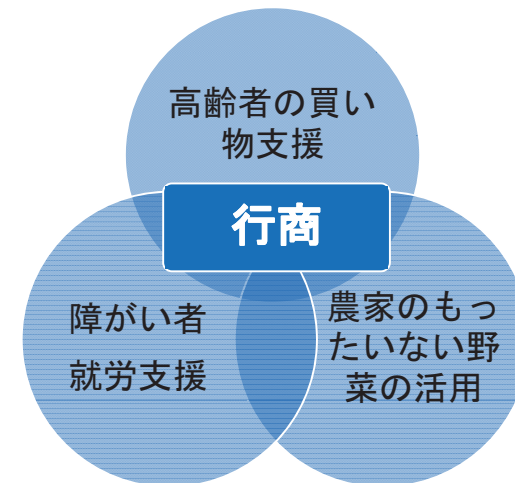
実践の中で鍛えられる、課題が発見できる、問題のつながりが見える

もったいないプロジェクトとは？

余ってしまう野菜を農家から購入し、それをリアカーに積んで松本駅西口からその周辺地域をまわって行商を行う活動のこと。



活動目的



野菜の引き売り～もったいないプロジェクト～ 2010年度からスタート







コミュニティ・カフェ

上土日とは

- * 地域の中で
人と人とのつながりの場を作ろうという取り組み
- * 昨年度2012年12月に第1回目を開催
第2回目は2月のバレンタインデーに開催
- * 2013年度5月26日家族の日から6回開催

第1回 上土日 開催日 2012年12月16日

テーマはクリスマス！ 



街中にあるサンタを探し出せ！
みつけれたらお菓子が貰えるよ！

カフェ



クリスマスリース作り キッズルーム



第2回 上土日和 開催日 2013年2月16日

テーマはバレンタイン!



下



チョコレート作り

みなさん真剣！



カフェ



おいしいお漬物 ありがとうございました！



第3回 上土日和 開催日 2013年5月26日

テーマは家族の日！



縁日

綿菓子作り



金魚すくい



駄菓子販売



映画鑑賞



カフェ



第4回 上土日和 開催日 2013年7月7日

テーマは七夕の日！



スギヤのアイス復活



七夕とカフェ



35

3 地域で自らの将来ビジョンを掘り起す

- 足りない「認められる」経験
→ 必要としてくれる人がいることが変える
- 何の為に誰の為に生き、働くのかを見出す
→ 自分を必要とする人や場があれば定着する
- 多様なライフスタイルが可能な地域をめざす

36

コミュニケーションは能力ではない 意欲×場数



4 結果としてのウィン・ウィン

- 地域にとってのメリットは若者が育つこと
 - 地域貢献は副産物・過剰な期待が若者を潰す
- 「この学生は駄目」と言わないで
 - 一緒に育てる感覚で・共育というキーワード
- いるだけで地域活性化
 - 「まちづくりは人の心を変えること」
- 飯田市・飯田長姫高校との「地域人教育」
 - 人材の地産地消への挑戦

地域人教育の試み



松本市上高地



ご静聴ありがとうございました。